

待降節・アドベントⅡ礼拝

2022年12月4日（日）

題 「ヨハネの誕生」

テキスト：ルカによる福音書1章5～25節

皆さん、おはようございます。

今日の聖書の個所には洗礼者ヨハネの誕生が予告されています。

ちなみにルカによる福音書を記したルカは、医者であり歴史家であったとも言われています。またルカは文章を書くのが上手だったと言われます。

聖書によれば洗礼者ヨハネは、救い主イエスが自分の後から来られることを語った人物です。

ヨハネという名前には「主は、神は慈しみ」という意味があります。

それが今日の聖書個所の内容の伏線になっているようです。

◆洗礼者ヨハネの誕生、予告される

5:ユダヤの王ヘロデの時代、アビヤ組の祭司にザカリアという人がいた。その妻はアロン家の娘の一人で、名をエリサベトといった。

約2000年前のユダヤでは、ヘロデ大王と言われる人物がユダヤ地方を治めていました。そしてユダヤ教という宗教の教えによって国の基本を定めていたのです。ユダヤ教では、紀元前10世紀のユダヤの王ダビデの定めで、祭司の組は24に分けられていました。その8番目に当たるのがアビヤの組でした。

祭司の組は期間を交替してエルサレムの神殿の祭儀を司っていました。8番目のアビヤの組に属する祭司に今日聖書に出てくるザカリアという人がいたのです。ザカリアには「主は記憶する」という意味があります。このザカリアが洗礼者ヨハネの父となったのです。

ザカリアは、大祭司アロン家の血筋のエリサベトと結婚していました。

このエリザベトという名前は、現在広島にあるエリザベト音楽大学の名前となっています。エリザベトには「神は誓われた。」という意味があります。

さて、このザカリアとエリサベトは、長年共に生きて来たのです。

「6:二人とも神の前に正しい人で、主の掟と定めをすべて守り、非のうちどころがなかった。」とあります。しかし、

「7:しかし、エリサベトは不妊の女だったので、彼らには、子供がなく、二人とも既に年をとっていた。」のです。

2000年前当時、「不妊の女」は、良くない事、恥として非難されていた

ようです。後にエリサベトの言葉として 25 節に「主は今こそ、こうして、わたしに目を留め、人々の間からわたしの恥を取り去ってくださいました。」とあります。もちろんこの二人、ザカリアとエリサベトも子は欲しかったですし、深い悲しみもあったようですが、二人とも既に年をとっていたので、もうあきらめていたようです。

さて、ここからです。聖書にありますように、

「 8: さて、ザカリアは自分の組が当番で、神の御前で祭司の務めをしていたとき、

9: 祭司職のしきたりによってくじを引いたところ、主の聖所に入って香をたくことになった。

祭司ザカリアは、大変な役が回ってきたのです。「くじを引いたところ、」とは、まだ今日のような選挙制度はない時代ですので、くじを引いて決めることは旧約聖書時代から、神さまの御心を問う方法でした。

そのくじにザカリアは当たったのです。これは大変名誉なこと、まさに「大当たり」でした。エルサレム神殿の内部に入り聖所で神さまに民に代わって神に届く香をたくという務めです。祭司であれば誰でも一度はやってみたい憧れと光栄な務めだったと思われます。

さて、ザカリアが「 10: 香をたいている間、大勢の民衆が皆外で祈っていた。」のです。祭司は聖所で神との祈りの交わりをなし、その時、民は祭司の奉仕を覚えて祈りを合わせる。そうして民と祭司は一つとなり、神を敬う祈りの民となるのです。この姿は後の姿にも当てはまるようにも思えます。

この時、神殿内で大きなことが起こったのです。

「 11: すると、主の天使が現れ、香壇の右に立った。」この時、表れた天使は後に 19 節で語られているように、天使は答えた。「わたしはガブリエル、神の前に立つ者。あなたに話しかけて、この喜ばしい知らせを伝えるために遣わされたのである。」と言われる大天使ガブリエルでした。天使は神に仕え人々に神の心を伝えるために使われるのです。

この時、祭司ザカリアはどうだったのでしょうか？ 12 節～17 節。

「 12: ザカリアはそれを見て不安になり、恐怖の念に襲われた。恐れるザカリアに、

13: 天使は言った。「恐れることはない。ザカリア、あなたの願いは聞き入れられた。あなたの妻エリサベトは男の子を産む。その子をヨハネと名付けなさい。

14: その子はあなたにとって喜びとなり、楽しみとなる。多くの人もその誕生を喜ぶ。

17:彼はエリヤの霊と力で主に先立って行き、父の心を子に向けさせ、逆らう者に正しい人の分別を持たせて、準備のできた民を主のために用意する。」とあります。

ここには、洗礼者ヨハネのことが記されています。ヨハネということばには「主は慈しむ」という意味があります。エリアという人物は紀元前9世紀に生きたイスラエルの預言者で、その後、人々にメシアであるキリストがこの世に来られる前に再び来ると民に信じられていました。福音書記者のルカは、洗礼者ヨハネこそがそのエリアのことだとみなしたのだと思われます。

天使は一气呵成にザカリアに語りかけているかのようです。

ザカリアとエリサベト夫妻に起こる神さまの計画です。

ザカリアは天使に答えます。

18:そこで、ザカリアは天使に言った。「何によって、わたしはそれを知ることができるのでしょうか。わたしは老人ですし、妻も年をとっています。」

ザカリアは素直に天使ガブリエルの言葉を素直に信じることはできなかったのです。

ザカリアの心は「何によって、わたしはそれを知ることができるのでしょうか。」と、証拠がほしい、見せてほしいと理由を求めているのです。

「わたしは老人ですし、妻も年をとっています。」これは事実です。

ザカリヤは知っているのです。もうこの現実は変わることはない、と。

自分で石のような固い確信を持っているのです。でもあえて言えば、このザカリアの「もう変わることはない。変わるはずはない。変えられない。」という確信、頑な確信こそが神の前には罪なのです。ザカリアは変えられるために、神に打ち砕かれなければならなかったのです。そして、わたしたちにもそういうことはあり得るのです。

19:天使は答えた。「わたしはガブリエル、神の前に立つ者。あなたに話しかけて、この喜ばしい知らせを伝えるために遣わされたのである。

20:あなたは口が利けなくなり、この事の起こる日まで話すことができなくなる。時が来れば実現するわたしの言葉を信じなかったからである。」

これが、天使が遣わされた言葉を受け入れず信じようとないザカリアが天使に問うた「何によって、わたしはそれを知ることができるのでしょうか。」に対する答えでした。

ザカリアは、自分の心の奥にしまい込んだ切なる祈り願いをもうあきらめ忘

れてしまっていたかのようなようです。しかし、神はザカリア夫妻の一番の願いを決して忘れてはおられなかったのです。神は覚えておられたのです！愛なる神さまは、私たちの心の深い所にしまい込んでしまった、もう忘れてしまったかのような切なる願いを、覚えてくださっている方なのです。ヨハネに名は「主は、神は慈しみ」、ザカリア夫妻は長い年月をへて神の慈しみを体験することができたのです。

その後、妻エリサベトは身ごもったのです。

24:その後、妻エリサベトは身ごもって、五か月の間身を隠していた。

そして、こう言った。

25:「主は今こそ、こうして、わたしに目を留め、人々の間からわたしの恥を取り去ってくださいました。」と。神を賛美したのです。

「恥」とは、「非難、不名誉なこと、汚名」とも言われます。それを神は取り去ってくださった。昔使用されていた文語訳聖書では、この「取り去る」という言葉は「すすがせんとて」と訳されています。漢字には「雪」という文字が使用されています。清らかな美しいことばだと思います。やがて神の子イエスは、自ら十字架にかかり、血みどろになって、全人類、被造物の罪を担ってくださったのです。

神はザカリアとエリザベトを慈しんでくださったのです。

そして、神から頂いた恵みを感謝し、新たなる喜びの思いを持って生きて行くのです。

そして救い主イエスは不安と苦悩、恐れと恥に苦しんでいる人々の元に来てくださるのです。

主の平安を祈ります。